

# 防犯に対する地域での取組み

その1

## —防犯は地域みんなで取組みましょう—

**今、住民同士で結束し、「自分たちの街は自分たちで守る」という気運が高まっています。**

### ご近所同士でできる防犯とは

防犯の基本は、わが身や家族、財産を自分で守ろうとする気持ちを持つこと。

犯罪を未然に防ぐには、一人ひとりの心がけと防犯対策に加えて、犯行の機会をうかがう犯罪者に、「この地域では犯罪がやりにくい」と思わせることです。そのため、隣近所が互いに防犯意識を高め、普段からそれとなく見守りあえるようにしましょう。

**ある地区に狙いを定めた犯罪者達は、その地区で犯行を繰り返す傾向があります。近隣で犯罪が発生したら、情報を共有し、再発防止に備えましょう。**

### 目と目を合わせて挨拶を

日頃から近所で挨拶をしていると、連帯感が深まり、不審者の姿や物音にも気がつきやすくなります。犯罪者は、顔を覚えられたくないので、住人から声をかけられるとほとんどがその場を去っていきます。

### 街のルールを守りましょう

犯罪者は、ゴミ出しなど街のルールが守られていない地域を好む傾向があります。落書きやポイ捨てなど小さな犯罪も見のがさず、住民同士連携し犯罪を寄せつけない街を維持しましょう。

今こそ防犯コミュニティー



**地域を守ることができるのは住民自身です**

# 防犯に対する地域での取組み

その2

## より良い街づくりが 防犯につながる

犯罪は繁華街や子どもの通学路、公園などの公共の場所でも起きています。自宅周辺だけでなく、地域ぐるみで快適で活力ある街づくりをすることが、防犯対策にもつながります。そのためには警察や自治体、学校と協力して、防犯のための街づくりを進めることが大切です。できることから始め、防犯ボランティアを募るなど地域をあげた防犯活動にも取り組んでみましょう。

### 夜道を明るくしよう

チカンやひったくりなどが発生している暗い道などには、自治体や町内会と協力して、防犯灯を設置しましょう。もし防犯灯の設置が難しい場合は、沿道住民と相談して門灯などの利用も検討してみましょう

### 公園の死角をなくそう

公園や緑地では、子どもを狙う犯罪者も現れます。公園の管理者と協力し、出入口を限定したり、人の隠れる場所がないようにしましょう。

## 地域安全マップをつくろう

街歩きをして、犯罪の起きやすい場所（「入りやすい」場所と「見えにくい」場所）を探しましょう。その場所を写真に収め紙に貼り、街の人々に聞いた話を書き込めば地域安全マップになります。安全マップの作製は、危険な場所を発見する能力の向上と犯罪の機会を減らすことにつながります。

また、子どもたちと一緒に子どもの視点でのマップづくりをすれば、子どもたちの地域への関心とコミュニケーション能力が育まれ、非行防止も期待できます。



## 防犯パトロールで積極的に声かけを

5人くらいで1チームを組み、犯罪が起こりやすい場所を中心に防犯パトロールを実施しましょう。犯罪抑止のためには、目立つ姿で存在感を示すことが大切。積極的に声をかけ、住民の防犯意識を高めましょう。

## 増やそう

### 「子ども110番の家」

地域によって呼び方は異なりますが、危険な目にあつた子どもがとっさに駆け込めるのが「子ども110番の家」です。民家や商店、コンビニなどが協力し、非常時には警察へ通報します。なるべく多くの賛同者を募り、子どもたちへ教えておきましょう。



〇〇市児童福祉センター  
〇〇市 〇〇区 〇〇番